

平成25年度 第1回東成区区政会議 議事要旨

1 開催日時 平成25年8月8日（木） 14時30分から16時40分まで

2 開催場所 東成区民センター 2階大ホール

3 出席者の氏名

【委員】

清水 弘(議長)、濱田 麗史(副議長)、市田 稔子(委員)、上田 利明(委員)、
大垣 孝子(委員)、大西 田鶴子(委員)、岡本 秀男(委員)、小川 治海(委員)、
篠崎 桂子(委員)、舩津 一男(委員)、松下 栄美子(委員)、宮田 孝夫(委員)、
米谷 晴生(委員)

【市会議員】

岡崎 太

【東成区役所】

森 伸人(東成区長)、久保田 信也(東成区副区長)、與那 敏雄(総務課長)、
西山 明子(総合企画担当課長)、中浦 進(区政総括担当課長)、
中川 隆央(まちづくり推進担当課長)、谷口 恭英(窓口サービス課長)、
笹部 毅(保健担当課長)、大西 茂樹(生活支援担当課長)、中川 正己(保健福祉課長)

4 内容（主な発言要旨）

（1）議長、副議長の選出について

【事務局】

条例制定に伴い、新たに区政会議の議長、副議長を互選により選出していただく必要がある。

【米谷委員】

従前どおり議長としましては清水さん、副議長に濱田さんをお願いしたい。

⇒ 異議なしのため、清水議長、濱田副議長に決定。

（2）区政会議の条例化及び平成24年度運営方針自己評価結果について

事務局より資料に基づき説明を行った。

（３）委員に意見を求めた内容：平成24年東成区運営方針自己評価結果について

※ 内容を要約しているため、実際の発言順序とは異なる場合がある。

➤ 市民協働ネットワーク形成支援事業、ふれ愛パンジーについて

【岡本（秀）委員】

市民協働のネットワーク形成はイベントをする必要があるのか。イベント以外の活動で十分成果を上げているところもある。そういった点も評価してはどうか。

また、交流会について、団体間の自慢話で終わっているということも聞くが、実態を教えてほしい。

【市田委員】

区民の協力の下でつくったふれ愛パンジーが最初の趣旨と異なった状態になっているのではないか。

【西山課長】

それぞれの団体でそれぞれの特徴ある取り組みあるいは実績を上げておられるところもあり、パンジーという拠点があるということの成果であると考えている。分かりやすい指標としてイベントを用いているが、ご意見も踏まえてより効果的な指標の取り方を検討したい。

交流会についても、より幅広い地域団体の方、あるいは活動団体の方々が交流を図ることによって、これまで以上の取り組みにつながるようなきっかけとなるような工夫をしてみたい。今後の運営方法にかかる貴重なご意見と受けとめさせていただきたい。

【森区長】

市田委員が指摘するとおりの認識である。パンジーができたころは、多くの区民の参加によって運営されていたが、私の就任時には運営委員が3人しかいない状態であった。

今年度中に、早ければ9月から新しいパンジーを再構築してみたい。具体には、市民のネットワークづくり、それが発展していく形のものに事業を再構築していく。

➤ 評価のあり方について

【米谷委員】

自己採点だとおおむね良好ばかりになる。第三者を入れた評価を行わないと正しい評価にならないのではないか。団体からは不平不満ばかりを聞いており、区役所の評価と実態の違いを感じる。

【濱田副議長】

外部評価委員会の設置という目標が達成できていない。自己評価だと評価が甘くなりがちなので、早急に委員会を設置して意見をもらうべきではないか。

【中浦課長】

今回の資料は区役所が行った自己評価結果である。今日の区政会議が外部評価の場であると考えていただきたい。

➤ 中間支援組織について

【濱田副議長】

中間支援組織について、説明の補足をお願いしたい。

【中川（隆）課長】

中間支援組織とは、平成24年10月から、地域活動協議会の形成、発足後の運営のサポートを主に担っている組織である。現在も各地域活動協議会の運営委員会や各種部会、役員会に参画させていただいている。

中間支援組織としてまちづくり支援センターが東成区役所にあり、4名体制となっている。契約については、市内を5ブロックに分けて契約しており、東成区のブロックは受託者が大阪市コミュニティ協会で、総額およそ2億円の委託料となっている。

➤ 地域活動協議会について

【船津委員】

戦略1-1で、若い世代やマンション住民をはじめ、多様な世代が参画して区民が地域を経営し云々ということになっており、その戦略の進捗状況で、地域活動協議会が設立されて戦略が順調に進んでいるということである。しかし、この地域活動協議会の平均年齢は65歳以上で、ほとんど若い方が入っていないと思う。若い世代やマンション住民の参画についてもっと考える必要があるのではないかな。

【清水議長】

校下ごとの予算について、人口の少ない校下では予算が非常に少ない。イベントを開催するとなれば、人口の多い、少ないはそれほど影響しない。26年度予算についてはそういう点も考慮していただきたい。

【篠崎委員】

地域活動協議会は振興町会があったからスムーズに形成されたと思うが、中身のある活動になっていないのではないかな。もっと職員が地域の声を聞きながら身のあるものにしていただきたい。

【中川（隆）課長】

ご指摘のとおり、各校下での平均年齢はそれほど低くはないが、すべての校下でPTA関係団体は参画いただいている。評価が甘いという指摘は真摯に受け止めるべきと認

識しているが、今まで地域のことを話す場になかなかつながらなかった人たちが少しずつ
なり出したという実感をもっている。今後、この地域活動協議会をベースに、いろい
ろな方の意見が交差するような、そんなテーブルになっていくように区役所としても努
力してまいりたい。

【森区長】

- ・ 内部評価については、区役所のトップとして厳しい見方を自分自身にしなければなら
ないと改めて感じたところである。
- ・ 若い世代の参画については、区長に就任して以来、各地域で課題となっていると聞い
ている。私の体験として、地域の方々がどのように祭りをしているのか、どのように
地域の安全が守られてここに住んでいるのかということを知らない若い世代が多い
と感じている。区役所としては、どのような地域の活動によって東成区が成り立って
いるのかということをもっと積極的に広報し、活動に参画するきっかけをつくってい
きたいと考えている。
- ・ 地域活動協議会の不満も耳にしている。今里、深江校下についてはモデル地区として
進めてこられた。区役所として、モデル地区での成功事例をもっと積極的に広報すべ
きであったと反省している。こういった反省を踏まえて、区民の方が活動に参画する
きっかけとなるよう、ふれ愛パンジーにおいて地域活動協議会をはじめとした区内の
各団体の活動が目に見えるような形をつくりたい。
- ・ これまでされてきた活動、歴史を大切にこそ新しい未来はつくれると考えており、
温故知新ということを大切にするという方針で進めてまいりたい。

➤ 東成区政について

【大垣委員】

地域には不満しかない。区長はどう考えているのか。また、区長がきて1年が過ぎた
が、何か変わったことがあるのか。東成区をどうしようと思っているのか。

【篠崎委員】

区長は公募で来られて、これまでの区長とは違うと思うが、職員はもっと区長を盛り
たてて、心を通い合わせて取り組んでいただきたい。一番困るのは、そこにいる住民だ。

【森区長】

- ・ 平成17、18年度に中野区というところで外部評価委員をした経験から、外部評価
を入れたと考えている。
- ・ 東成区で取り組んだこととしては、例えば、大阪市全体でネットワーク推進員がなく
なったが、東成区では地域の方の声をお聞きして、おまもりネット事業を核とした高

齢者・障がい者等の見守り事業を実施している。これには、区で自由に使える予算の約4分の1にあたる2,390万円の予算を組んでいる。おももりネット事業は区民の方々が育ててきた一番現場に即したもので、これを残しながら福祉をより一層進めてまいりたい。

- ・また、現在区役所で「平和を考える会」を行っており、平和を願って折り鶴を折っていただいたり、大阪が現実には空襲に遭ったということがわかるようなDVDを放映している。また、17日には平和が大切だということを考える集いを開催する予定である。
- ・区民の方にはもっと厳しい意見をぶつけていただきたい。各団体がこれまで行ってきた活動については、東成区長として誇りに思っている。これを維持、発展させていくために区役所がどのような形で支援できるのか、また、持続可能な地域経営、地域社会をつくっていくにはどうすればよいのか、みなさんといっしょに考えたい。一方で、職員が事務局機能を担うことや、補助金等の財政的な面について東成区独自で方向性を変えることは難しい。

➤ 総括

【清水議長】

これらの評価をみて、全然できなかったというよりはある程度達成できたということの良いことだと思う。地域の方々の協力があることで地域を大事にするということを考えていただきたい。

また、地域活動協議会に対する26年度予算については、もっと早くから各校下に予算を示してどのようなことをするのか事業計画を立ててもらうことをやっていくべきだと思う。

【濱田副議長】

区政運営に役立つ意見を述べているという自負を委員の皆さんに持っていただいて、東成区の発展のためにお互いに協力していきたいと思う。